

でん ともえごぜん はか
伝・巴御前の墓〈鎌倉時代〉

木曾義仲に仕え、鎌倉に渡ってからは和田義盛の妻になったとされる「巴御前」の墓と伝えられています。地元では「巴御前様」と呼ばれていたそうです。

ま た ら しんほこら
摩多羅神祠〈江戸時代〉

宝暦元（1751）年、この地で天然痘が流行り、村人が日光輪王寺から同寺「常行堂」の守護神である「摩多羅神」の幣を譲り受けてお祀りしたものとされています。

しょうりんじ てんだな
小林寺 天棚〈江戸時代〉

4月に行われる「天祭」と呼ばれる五穀豊穰祈願の祭の際、広場の中央に立てられる台です。天棚を中心に祈願や梵天担ぎが行われます。小林寺の天棚は江戸時代に造られたものです。

あさひな ごりんとう
朝比奈の五輪塔〈鎌倉時代〉

鎌倉の御家人 和田義盛の三男、「朝比奈三郎義秀」の墓。和田合戦（1213年）での敗走で当該地へ落ち延びた際、死んだと見せかけるために建てられたと伝わっています。

あまごいづか あまごいづか おくまのづか
尼恋塚(雨乞塚)・御熊野塚〈鎌倉時代〉

（伝承）「あかね」という娘は、朝比奈三郎と共に落ち延びた家来「熊野五郎」を慕い、尼となりその行方を探しました。しかし北小川の地で病にかかり倒れてしまいます。そこへ偶然五郎が通りかかり助け起こしますが、あかねは彼の腕の中で息を引き取りました。五郎も悲しみのため後を追うように自害します。里人たちはこれを憐れみ、二人の墓をつくりました。これが「尼恋塚」「御熊野塚」と言われています。また、水不足の時にこの塚に祈ると雨が降ることから、「尼恋塚」は「雨乞塚」とも呼ばれています。



みぶ歴史ウォーク

鎌倉殿の13人ゆかりの地めぐり

壬生北小学校→伝・巴御前の墓→
朝比奈の五輪塔→摩多羅神祠→
尼恋塚(雨乞塚)・御熊野塚→
小林寺→壬生北小学校

【約 7.1 km】